



お前が恋しいあまり
生霊になって寝こみを
襲う俺を愛してくれ

大学で知りあい意気投合した光太は今や親友と呼べる存在。二人で充実した日々を送っていたものを、三年にもなると忙しくなつて。

進む道がちがうこともあり、長いこと顔を合わせられず。入学してから、ほぼ毎日、会っていたものだから、こまめに連絡をとるあつても寂しいっただらない。

そのうち恋しいあまり夢を見るように。

毎日毎日、光太に夜這いをするという内容の。

眠ってからすこし経てば、光太の暗い部屋に立っている。

寝ている、その布団をめくると「バックだけ身に着けたほぼ裸。

パンツ一丁で寝ているとは聞いたことがないし、泊まったときは寝間着姿だったし。

「俺はこいつにどんなイメージ抱いてんだ？」と我ながら訝しみながら、光太が寒がって起きないよう布団のなかに侵入。

背中に抱きつき、首にかかるい口づけをしつつ、やんわりと乳首を撫であげ、「バックを指でこしょこしょ。

肩を震わせ「は、ん、ううん……」と湿った吐息をし、「バックを濡らしてもじもじ。

「バックに指を潜りこませ、先っぽを擦り、首をしゃぶって乳首を揉

んでの畳みかけ。

「はあう、ふあ、ああう、んあああ！」と射精したなら、さすがに目を覚まして「だれ！？」と振りかえろうと。

もう、かなり体が火照っているに布団を放って、あらためて光太に馬乗りになり見下ろす。

が、あちらからは俺が見えないようで「な、なに？重いけど、だれも……」と困惑。

呼びかけたくても声がでなかったし、怯える光太を透明人間になったようなまま犯すのは満更でもないし。

体力を回復するために男とエッチすべしという

阿呆設定のせいで武闘家は今日も男漁りに忙しい

たしかにエロゲーの開発者の一人として物申した。

「魔法使いが精液で魔力を回復するなんて設定ありがちじゃない？」と。

だからといって、エロゲーの世界に転生した俺が武闘家になり、体力回復するには男のをしゃぶるか、中だしされるか選択肢がないという立場になろうとは。

神のいたずらの如く悪質な設定変更に翻弄されつつ、フェラさせてくれる男を探しての忙しい日々。

村や町で補給しては、旅にでて体力がつかけたころ村や町について

補給の繰り返し。

時間経過でも回復するが遅いし微々たるもので、アイテムや魔法では不可能。

冒険者としてはかなり不便だし、そもそも男のをしゃぶるのだって気が乗らない。

数をこなしても慣れず、おおいに萎えて「へたくそ」と相手にけちをつつけられ乱暴にされる。

日常生活を送るくらいなら補給をしなくても済むというに、いやいや男の股間に顔を埋めてでも、どうしても冒険をしたいのか。パーティーの双子の女キャラがかつての愛しい人だから。

仲間は男三人と女二人。

武闘家の俺と剣士と賢者、黒魔導師と白魔導師。

イラストレーターの俺がキャラデザをし、それぞれにモデルがいる。

女魔導師二人は大学のころ片想いをしていた双子で、剣士と賢者はその恋人、そして武闘家は惨い失恋をした俺。

とあってゲームのテストプレイをしたときは、双子が相手を選択できずに、武闘家とエッチさせまくり「ざまあみろ！」と仮の復讐をしたもので。

そうモデルになった男二人は友人であり、俺の恋心を知っていながら、まんまと双子のハートをかつさらった外道の裏切り者だ。

名もなきモブ侯爵令息の処女欲しさに

貴族や国王や他国の皇子まで決闘すなんて！

その乙女ゲームには決闘システムがある。

ヒロインが念願のプロポーズをされたところで、ほかの男が待ったをかけ、彼女を巡って命がけで戦うという。

もちろんプレイヤーは攻略目前の相手と結ばれたいが、決闘を見守り応援することしかできず。

ただし、声援の送り方で勝敗は左右。

たとえば、あまりに熱をあげて応援をしたら。

攻略したいキャラが優しいとプレッシャーになるし、対戦相手が負けん気が強いと闘志を燃やすといった具合。

キャラの性格によって応援の仕方を考え、もしその判断を誤れば、最悪、ゴールイン直前で推しキャラは死亡。

それを回避する方法はひとつだけ。

剣を交える二人の間に「わたしのためにやめてえ！」と跳びだすこと。

とはいえタイミングを外すとヒロインが死んで初めからやり直しというから、乙女ゲームにしてなかなかのプレイヤー泣かせ。

なんて決闘システムを考案したのは開発者の一人の俺。

ネットでは「この鬼畜！」と叩かれているとはいえ「ゲームは売れているしなあ」とさほど気にしなかったのが。

交通事故にあい開発した乙女ゲームの世界に転生。

ヒロインの友人の友人、名も顔もないモブの侯爵令息に。

決闘システムがある以上、へたに目立たずヒロインと関わらないのが得策。

だれかの決闘に巻き込まれないよう、侯爵令息として不自然に見えないよう気をつけて過ごしていたところ。

他国の貴族や王族を招待しての王宮のパーティーに参加。

歓談や踊りに目もくれず、ローストビーフを食べていたら「もし、レオナルド殿ですか？」と背後から声が。

デスゲームの首謀者を引きずりだしての

お仕置きエッチは案外、わるくない

修学旅行にてグループからぬけた俺と幼なじみの武夫。

二人とも鉄オタだから市内中の駅を回り、電車を見たり乗車したかったから。

グループでの自由行動の時間は限られている。

焦りに焦って「武夫！こっちが近道だ！」と裏路地に踏みいったところ。

うしろから急にだれかに抱きつかれ、口に布を押し当てられたなら意識消失。

柔道部エースの武夫が暴れなかったということは同じ目にあつたのだ

ろう。

それから、どれくらい経ったものやら。
目を覚ましたのは、ふかふかのベッドの上。

あたりを見回すとホテルの一室のようで、いや、ピンクの壁にどぎつい内装はたぶんラブホ。

隣には武夫が寝ていて、すこし遅れて「う、うーん」と起きあがった。
「俺たち裏路地で襲われたんじゃないやなかったっけ？」

「まあラブホにきた覚えはないよな。
駅を巡るのに忙しくて、そんな暇はないし」

なんて話していたら、にわかにスピーカーを通しての高笑いが。

「やあやあ！わたしが主催する華麗なるデスゲームの世界へようこそ！

早速だが、天井を見たまえ！

太く鋭い針がびっしりと並んでいるだろう！

そしてほら！天井が動きだして、ゆっくりとだがきみたちに迫っている！

これを止める方法の一つ！

この一室でガチのエッチをすることが！

ふりをして止まらないし、挿入して中だしたか否かは、こちらに

はお見通しだからな！

さあ針に串刺しになって死ぬのがいやなら、命を燃やすようなエツチをわたしに見せてくれたまえ！」

転職先の制作会社で事務員になるか俳優になるか

パンツ一丁の男に試されています

ブラック会社から脱しようと血眼になって転職先を探した。
で、見つけたのが、給料よし福利厚生よし残業なしの優良企業。

求人広告には「世に斬新なコンテンツを生みだし広めましょう！」としか書いていなく、どんな会社なのか詳細は知れず。

それでも好条件に群がる人は多いだろうし、山積みその履歴書の選考を経て面接にこぎつけたなら、このチャンスに逃す手はない。

散髪をし、おろしたてのスーツを着て、いざ好待遇の転職先ゲットへ。

会社がいっているビルは新しくきらびやか。

内装も今風でおしゃれ、雰囲気からして風通しがよさそう。

面接をしてくれた社長も気さくなイケオジ。

アロハを着た、陽気でおしゃべりな人だが、口を閉ざしてきめ顔をすれば、モデルや俳優のようだし、どこか色気が。

同性ながら、つい見惚れて社長の問いかけに生返事。

「じゃあ早速、試してみようか！」と告げられ「はい」と応じてから首をひねる。

「なにを」と問い返すまえに、けたたましくドアが開き、男たちが乱入。

パンツ一丁の二人を見て「は？は？は？」と混乱するうちにソファの背もたれを倒されて仰向けに。

まだ状況を飲みこめていない俺に二人が接近し、背広を乱して胸をまさぐり、パンツのもっこりで俺の息子を挟んで、もう片手の指で膨らみの先っぽをいじりだす。

ぎよっとして声をあげようとしたとき「こうしよう！」と社長が高らかに提案。

「もし一声も喘がなかったら求人に書いていたとおりの条件で事務として雇おう！」

だが、一声でも喘いだら男優として働いてがっぽ稼いでもらうよ！」

どうやら騙されたよう。

もちろん「だれが、男向け△△に出演するか！」と拒絶したかったが、

その叫びを飲んで唇を噛む。

不能な俺がせつかくエロゲーに転生したのに

シヨタコンの餌食になるなんて

ある日、急にインポになった。

原因不明で、一向に治らず、医者もお手上げ。

おかげで彼女にふられたし、お気にいりのエロゲーをやっても愉悅にも快樂にも浸れないし。

「死ぬまで勃たなかったらどうしよう・・・」と真剣に悩んでいた矢先、交通事故で死亡。

が、地獄にも天国にも行かず、目が覚めたのは明るい森。そして目のまえで揺れているのは巨乳。

おっぱいの向こうから「大丈夫？」と顔を覗かせたのは美しい女剣士だ。

好きなエロゲーのメインキャラ。

「ということは」と自分の顔を触り、体を見てみると、やはり勇者のよう。

十六才ながらに小柄でかわいらしい顔をしているから、見た目は十二・三才といったところで、通称は「シヨタ勇者」。

エロゲーとあり、このシヨタ勇者がハーレム状態で旅をしながら、あらゆるお姉さまに導かれ促されかわいがられる。

メインキャラはほとんど年上のお姉さまだが、仲間の一人は男。

シヨタ勇者の幼なじみの剣士、リベリオン。

同じ年ながら、逞しい体つきに凜々しい顔つきをし、しっかり者だから、まわりは疑いなく大人扱い。

そう、俺といっしょにいと、たいていは保護者と被保護者にまちがわれる。

今は中身がアラサーとあって、子ども扱いされるのが余計、気に食わないが、まあ、エッチイベントに関して彼は傍観者だから。

俺とお姉さま方が親密になるのを妨害したり、口を挟んだりしなければ、オールオツケー。

「これからはショタハーレムを堪能するぞ！」と胸を弾ませて、すっかり失念を。

前世では重度のインポに陥ったことを。

犬になった俺はご主人である悪役令息の

甘い体液を舐めつくしてまだ足りない

会社で「犬みたいだな」と指摘されるのを誉め言葉だと受けとっていた。

犬のように愛嬌があり、忠誠心が強いのだと。

「そうじゃなかったのかも」と思うのは、実際に犬になってからのこと。

なんやかんやで乙女ゲームに転生した俺は、悪役令息の犬に。

いや、人間だし従者だが、ご主人の部屋に呼びだされると、裸になって首輪を装着。

鎖を引っぱられて四つん這いに歩き「ワン」としか云えず、つい人間

のように話したらお仕置きの鞭。

「お座り、お手、おちんちん」と一通り躡けられ、何回もボールでも
つてこいの遊び。

だけならまだしも、靴を舐めさせたり、四つん這いで残飯を食わされ
たり「発情しているとこを見せろ」と自慰をさせられたり。

ヒロインへの妨害工作がうまくいかず、その腹いせなのだろう。

それにしても元社会人の俺が、十七の糞餓鬼に犬扱いされ笑い者にさ
れるのは屈辱的すぎる。

そのはずが命じられるまま足を開き扱いてみせるのは、ご褒美欲しさ
のため。

始終、俺を辱めて虐げる悪役令息なれど、最後にならずチョコをく

れるのだ。

俺は大の甘党で、とくにチョコに目がない。

ただ、この世界でチョコは貴族しか口にしないような貴重且つ高級品で、従者にはとてもとても手が届かず。

となれば「ワアン・・・！」とみっともなく鳴いて射精してでも、ありつきたいというもの。

この世界のチョコは純度が高く極上の甘みがあるから、なおのこと。

「まあ、すこしエムっ気もあるのかもな」なんて思いつつ、日中の仕事を。

階下が騒がしくなり、悪役令息が帰ってきたようで、すこしもせず俺を呼びだす鈴の音が。

曰くありげな間取りに隠された

邪悪で淫靡な男たちの秘め事

世の中には一見、不合理な間取りが数多くある。
それらの物件を取材や調査をして、動画で発表するのが俺ら社会人の
趣味グループ。

さて今回の物件は。

一階は標準的ながら二階の間取りが異質。

まず階段の入り口に頑丈そうな扉があるのが不思議。
しかも一階側でしか鍵の開き閉めができないという。

その階段を上ると廊下を挟んで、すぐ向かいに部屋の扉。

寝室のようなれど、シャワーとトイレがセットになった小部屋が奥に。

二階にはほかにも部屋があるものを、シャワートイレルームを出入りできるのは、その部屋のみ。

ちなみに、ほかの部屋は左右「字型」に。階段の向かいの部屋を両脇を挟む構造。

三部屋の間には廊下があるのだが、突き当たりには謎の収納スペース。真ん中の部屋、シャワートイレルームの両脇に。

「字型の部屋以外には窓がなく、昼でも電灯をつけないと真っ暗。ドアを開けておけば、すこしは自然光がはいりそうだが、実際に二階に行ったところノブはびくともせず。

なぜか二部屋ともに鍵穴が。

一方で真ん中の部屋には内側にも外側にも鍵はなし。

さらにさらに建築関係の仕事をする仲間にいわせると、階段と二階の壁はほとんど防音仕様でやけに厚みがあるとか。

なにかと想像が膨らむ間取りなれど、いくら不動産屋にかけあっても、周辺で聞きこみをして、資料などを調べても詳しいことは分からず。ただ、関係あるのかないのか近所で心霊現象が起こるよう。

若い青年が服を引き裂かれての無惨な格好で、裸足のまま徘徊し、人を見つけては「帰して・・・」と懇願すると。

